

NPO 富里のホタル

NPO法人 NPO富里のホタル 編集委員会 発行 2011.7.10 第21号

■夏休み親子でホタル観賞ウォーキング開催 天神谷津でヘイケボタルの光の舞を観よう!

「私たちは、ゲンジボタルに比べると体は小さく光も弱いヘイケボタルですが、食べものに好き嫌いがなく、暑さや寒さ、乾燥にも強いのが自慢です。散策路沿いに群がるように点滅する光の帯は、まるで「天の川」のようです。ご家族や友人同士で是非ご参加ください。

◆日時: 7月23日(土)、24(日)

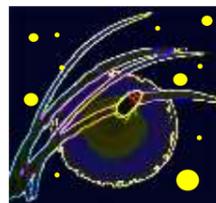
午後7時スタート~9時ゴール (注)雨天中止

◆受付: 午後6時30分より「富里中央公園」駐車場にて

◆会費: 運営費として大人200円

◆コース: 公園→天神谷津→公園を巡る周回コース、約5km

◆申込み: ☎090-3499-9161 又は、メール okamoton@themis.ocn.ne.jp までご連絡下さい。



虫もいるので、
観スポンがオススメだよ。

スニーカーなど、
すべりにくく
歩きやすい靴で来てね。



●天神谷津整備、ついにロープ柵の設置完了 市民活動支援補助金を活用

ホタル観賞ウォーキング開催に備え、定例作業日(第1・3土曜日)以外の日も会員のご協力を頂き、ロープ柵設置を積極的に行って来ました。その結果、富里第一小学校による自然観察会(6/28)にも間に合い、児童達が安心して天神谷津を駆けまわっていました。谷津を安全に周回できるので、ホタル観賞の魅力スポットが増えると思われます。



▲2m間隔で杭を仮置きする。



▲位置決めをして杭を仮打ちするベアー(手前)と、地上90cmまで打ち込むベアー(奥)



▲二人の呼吸が合うとロープが杭にしっかりと結ばれる。

《ロープ柵設置までの概要》

5/24: 補助金交付申請書を富里市に提出

5/31: 補助金交付決定通知書を受領(交付額 15万円)

6/04: ロープ柵設置場所の確認と杭の本数測量

6/18: 杭とロープを購入、注文

6/24・30: 天神谷津へ杭 190本を運搬

6/25: ロープ柵(杭 140本)設置

7/02: ロープ柵(杭 50本)設置(北西斜面丘の林道)



▲谷津の散策路にそって設置されたロープ柵、白いクレモナロープが映える。数年経つと深みのあるグレーに変色する。



▲一巻200mのロープを使い終わり、次のロープとの結合作業はまさにゴッドハンド!



▲ロープの結び方を教わる会員



▲教わった結び方を早速実践、腰の入れ方も様になって来た?

■地蔵谷津でホタル観賞ウォーキング実施

200名近い応募があり、途中から参加をお断りする事態となる程でしたが、開催当日の6月11日は、午前中が大雨だったためキャンセルが続出し、結局82名の参加者での実施となりました。13人の子供達を含む全員が5kmの夜道を無事に歩ききる事ができました。初めて見るゲンジボタルに歓声が谷津に響きわたり、親や祖父母がホタルを手にとって子供達に見せ、そしてそっと放す微笑ましい光景を目にすると、雨が上がって良かったと思えました。残念ながら、発生数は昨年に比べ激減してしまいました。その原因を考え、発生環境の整備に慎重に取り組んで行かなければと考えています。



▲中央公園を出発する参加者の皆さん

■天神谷津で子供達の自然観察会 富里第一小学校(児童33人)

天神谷津を子供達の環境教育に活用してもらえないかと、私達は、今春から市内の小学校と交渉を進めて来ました。その結果、富里第一小学校の國本校長先生から要請があり、3年生の総合学習(自然観察会)の授業で実現しました。



▲竹製の橋の上からザリガニを見つけて興奮する児童たち(児童4、5名にボランティアガイド1名が付き添いました)

まずは、資料作りとボランティアガイドの選出に奔走、天神谷津のロープ柵設置も前倒しで行いました。初めての試みなので、どんな質問が飛び出すのだろうかと不安でしたが、トンボやザリガニを観たり触ったり、熱心にメモをとる子供達の真剣なまなざしを見ると喜びに変わりました。次々に生きものを発見し、生き活きと動き回る子供達は、まるで野性に目覚めたようでした。「まだ帰りたい」「また来たい」という声が多くの子供達からありました。驚きと感動に満ちた、あつという間の1時間であったと思います。

▼観察した事を探検ハンドブックにメモする児童たち



●第8回里山シンポジウム、いすみ市で開催 会員13名が参加

5月22日、「里山里海と食」をテーマにした里山シンポジウムが夷隅文化会館で開催され、会員13名が参加しました。午前中は富里市農協の仲野隆三氏による基調講演「やればできる2億から75億への成長の軌跡」、午後は5つのグループに分かれて車座意見交換会に参加しました。里山の恵みがこの先も持続するよう、私達の活動に生かせればと思います。



■私達の活動、「ちば県民だより」6月号に掲載される

6月5日発行のちば県民だより「ガンバッてます!」のコーナーに、NPO 富里のホタルの活動が写真入りで紹介されました。ホタルシーズンと重なったため、富里市外の多くの皆様からホタル観賞会についての問合せが殺到して対応に苦慮しましたが、当会の認知度が上昇したのは間違いありません。

★天神谷津★ いのち 生命のにぎわい

ホタルブクロ(蛍袋)

6/15 撮影

梅雨時になると咲き出す花の一つに「ホタルブクロ」があります。キキョウ科の植物で日本各地に分布しており、天神谷津に入る左側斜面から点々と見受けられます。色は白色から淡紅紫色、濃紫色と多彩です。一般的な名前の由来は、この花の中にホタルを入れて遊んだという説がもっともらしいです。しかし、ホタルが飛び交う暗い時間帯に果たしてこの花を見つけられるのだろうか・・・という見方もあります。もう一つ説は、「提灯(ちょうちん)」が、むかし「火垂(ほたる)」と呼ばれていて、それに似ているからというものです。皆さんはどちらを選択しますか。雨の多い時期、花粉を雨や風から守るのに、このような鐘形は最も適した形といえます。あらためて植物の神秘に脱帽。



会員紹介

なかの しんじ

中野 信二 さん(75才)

・・・「ホタルとの付き合い」・・・



横浜市立滝頭国民学校4年生の頃、祖父の住む郡山市に疎開した時からホタルとの付き合いが始まりました。猪苗代湖から安積流水を利用した見渡す限りの田園風景の中で、初夏には沢山のホタルと出会いました。しかし、戦時中でホタルに関心を持つ農民はいなかったようです。その時見たホタルの乱舞は、少年期の私の脳裏に強く焼き付けられ、今日でも鮮明に思い出す光景です。その後、7年間を過ごした仙台市広瀬川でもホタルを見てきました。当時、ホタルの保護運動ではなく、学生運動全盛期でそちらへの関心が強かったと思います。平成14年、富里市久能のゲンジボタル保護と観賞を目的とした会の発足に関わり、平成19年には発起人の一人として当NPO法人の自力での設立と、富里市の新しい公募型補助金制度の活用にも深く関与してきました。屋外作業は不器用で、殆ど参加できませんでしたが、少年期の感動をバネに、会発足にわずかながらも貢献できたことに感謝しています。

会員募集

★ ホームページ NPO 富里のホタル 開設、アクセスお待ちしています !! ★

<http://www4.ocn.ne.jp/~okgo/>

NPO 富里のホタルは、中央公園や谷津田で、ホタル発生のための環境保全活動を行っています。活動に関心のある方は、お気軽にお問い合わせ下さい。(年会費: 2000円)

現在の会員数: 0134

【連絡先】NPO 法人 NPO 富里のホタル 理事長 草野孝江 ☎ 090-3499-9161